

川崎の道の今と昔

① 道路を通る人と乗り物

乗り物が増えたことで、人々の暮らしや道路はどんなふうになったのでしょうか。

むかし



いま



むかし 約3日間

江戸時代、一番早い飛脚は、約3日間で江戸（今の東京）から大阪まで手紙を届けていました。これは、幕府の文書を急いで運ぶ特別な場合です。

町の人を使う飛脚で、最も安い料金で運ぶ場合は、1ヶ月近くかかっていました。

いま 約1日



東京から荷物を出した場合、宅配業者にもよりますが、原則次の日には大阪に届けることができます。高速道路を使って、速く、遠くに運ぶことができます。

② 川崎を通る道

今の川崎市を通っている主な道には、国道・県道・市道があります。



- ・国道とは、各地方の主要な都市を結ぶ大きな道路です。
- ・県道とは、重要な国道と国道を結ぶ道路や、鉄道の駅や港等を繋ぐ道路です。
- ・市道とは、地域と地域を結び、生活に必要な道路です。

主要地方道(県道)

番号	名前	長さm	道路愛称
2	東京丸子横浜	3,238	綱島街道
3	世田谷町田	8,792	津久井道
6	東京大師横浜	6,540	産業道路
9	川崎府中	10,320	府中街道/市役所通り(一部)
12	横浜上麻生	3,038	麻生通り
13	横浜生田	4,583	浄水場通り
14	鶴見溝ノ口	10,302	尻手黒川道路(一部)
19	町田調布	1,796	つるかわ街道
45	丸子中山茅ヶ崎	5,664	中原街道

主要地方道(市道)

番号	名前	長さm	道路愛称
1	幸多摩線	15,996	たまげん線道路
2	野川菅生線	6,594	尻手黒川道路

一般県道

番号	名前	長さm	道路愛称
101	扇町川崎停車場	4,109	新川通り
106	子母口綱島	1,266	
111	大田神奈川	3,995	ガス橋通り
124	稲城読売ランド前停車場	1,480	
137	上麻生連光寺	5,530	
139	真光寺長津田	1,496	
140	川崎町田	1,658	西口通り(一部)/市電通り(一部)

一般国道

番号	名前	長さm	道路愛称
1	一般国道1号	3,087	(第二京浜)
15	一般国道15号	2,696	(第一京浜)
132	一般国道132号	4,562	富士見通り
246	一般国道246号	7,170	
357	一般国道357号	2,969	東京湾岸道路
409	一般国道409号	20,453	府中街道/大師道/浮島通り

自動車専用道路

名前	長さm	道路愛称
高速自動車国道東海自動車道	5,340	東名高速道路
一般国道466号	4,930	第三京浜道路
県道高速横浜羽田空港線	6,355	高速神奈川1号横羽線
県道高速湾岸線	5,769	高速湾岸線
川崎市道高速縦貫線	5,500	高速神奈川6号川崎線



道路愛称名標識

川崎の道の今と昔

③昔からの六街道

川崎市には、昔6つの街道があり、人びとの生活にとって大切な役わりを果たしていました。



府中街道
川崎を含む武蔵国の国府が置かれていた府中へ続く道。鎌倉幕府が開かれるようになると、各地の武将と鎌倉を結ぶ政治・軍事上の道「鎌倉道」が生まれ、府中街道の一部もその役目を果たしていました。溝口には、現在のルートの上に旧道が残っています。

大山街道
古くから雨乞いの山として有名な大山を参拝する道として知られ、また駿河の茶や真綿、伊豆の椎茸、乾魚などの物資を輸送する商業ルートとしても重要な役割を果たしてきました。江戸時代に溝口村・二子村が大山街道の宿駅となったことで、いろいろな産物がここを通り、大きく発展しました。

大師道
東海道五十三次の1つ、川崎宿から厄除けで知られる川崎大師に至る道です。古くから庶民の信仰を集めた川崎大師は徳川11代将軍徳川家斉が文化10年(1813年)に公式参拝してから、一層広く信仰されるようになりました。日帰りができる関東屈指の霊場として、川崎大師には江戸からの参詣客が絶えませんでした。



津久井道
この街道は、世田谷の三軒茶屋から登戸、生田、柿生を通過して津久井へ続く道です。人々の生活、商人の活発な活動を通じて発達し、商業の道として活用され、津久井・愛甲の絹を江戸に送るいわゆる「シルクロード」として利用されると同時に、黒川炭などの特産物も運ばれていました。

中原街道
徳川家康は鷹狩りなどの際に、平塚市の中原御殿で休憩し、この街道を通過して江戸に向かいました。相模を通るので「相州街道」、平塚でつくられた酢が江戸城へ運ばれたので「お酢街道」などとも呼ばれ、東海道ができるまでは重要な街道でした。現在では県道丸子中山茅ヶ崎と呼ばれています。

東海道
江戸の日本橋から京都の三条大橋まで続く道で、この東海道を大名行列が通ることで多くの物が行き交い、東西の文化交流が活発になりました。川崎宿は他の宿より遅れて元和9年(1623年)頃作られ、東海道を上る旅人には六郷の渡しを控えた最後の宿泊地として、そして川崎大師の参詣の拠点として賑わった宿場でした。

④街の様子

東海道が通っていた場所には、今も古いお寺や神社、石碑がたくさんあります。

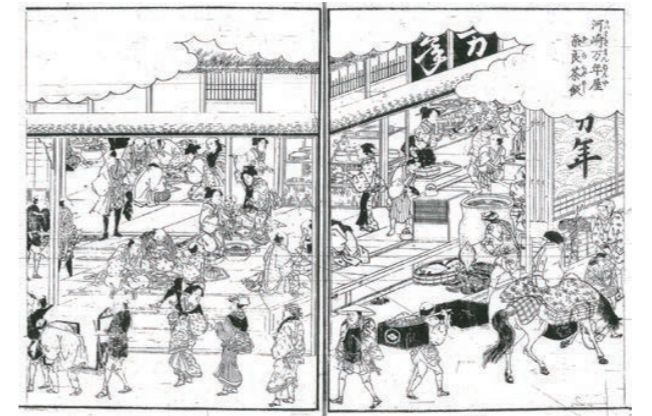
東海道と川崎宿



今の東海道沿いのまちなみ (川崎区本町2丁目) 東海道川崎宿は2023年に起立400年を迎えました。



東海道五十三次 川崎「六郷渡舟」 (国立国会図書館所蔵)



川崎宿・万年屋 「江戸名所図会」 (国立国会図書館所蔵)

街道には、モノや旅客を次の宿に運ぶための人や馬を備えた「宿(しゆく)」がありました。そこに宿泊施設が建つようになり、宿場町ができました。宿場町には茶店や商店もあって、賑やかな場所でした。



東海道川崎宿について映像や模型を見ながら、歴史と文化を楽しく学べる施設です。

東海道かわさき宿交流館 (川崎区本町1丁目8番地4)

川崎市高津区溝口には、宿場町がありました。蔵づくりの建物もあって、宿場町らしいまちなみが今でも残っています。

大山街道



今の大山街道沿いのまちなみ (高津区溝口2丁目)



大山街道とニヶ領用水が交わる場所に架かる大石橋 (高津区溝口2丁目) 小池 汪氏 蔵

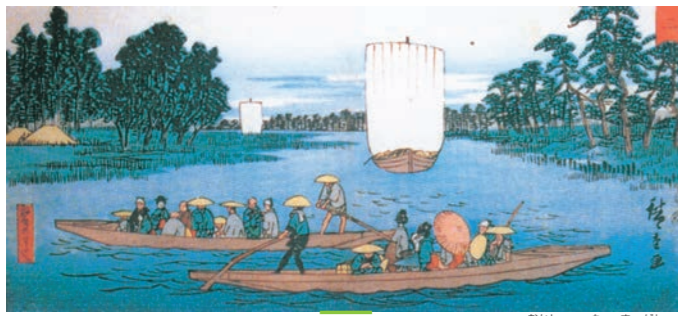
かわ さき みち いま むかし
川崎の道の今と昔

かわ さき はし ものがたり
⑤川崎の橋物語

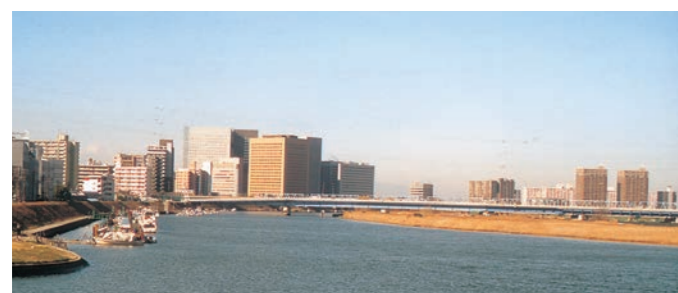
川崎市にある橋は、2メートル以上の長さのものを数えると、600を超えます。その中で、多摩川に架かっている橋だけでも、道路橋12、鉄道橋9、合わせて21もあります。



丸子橋

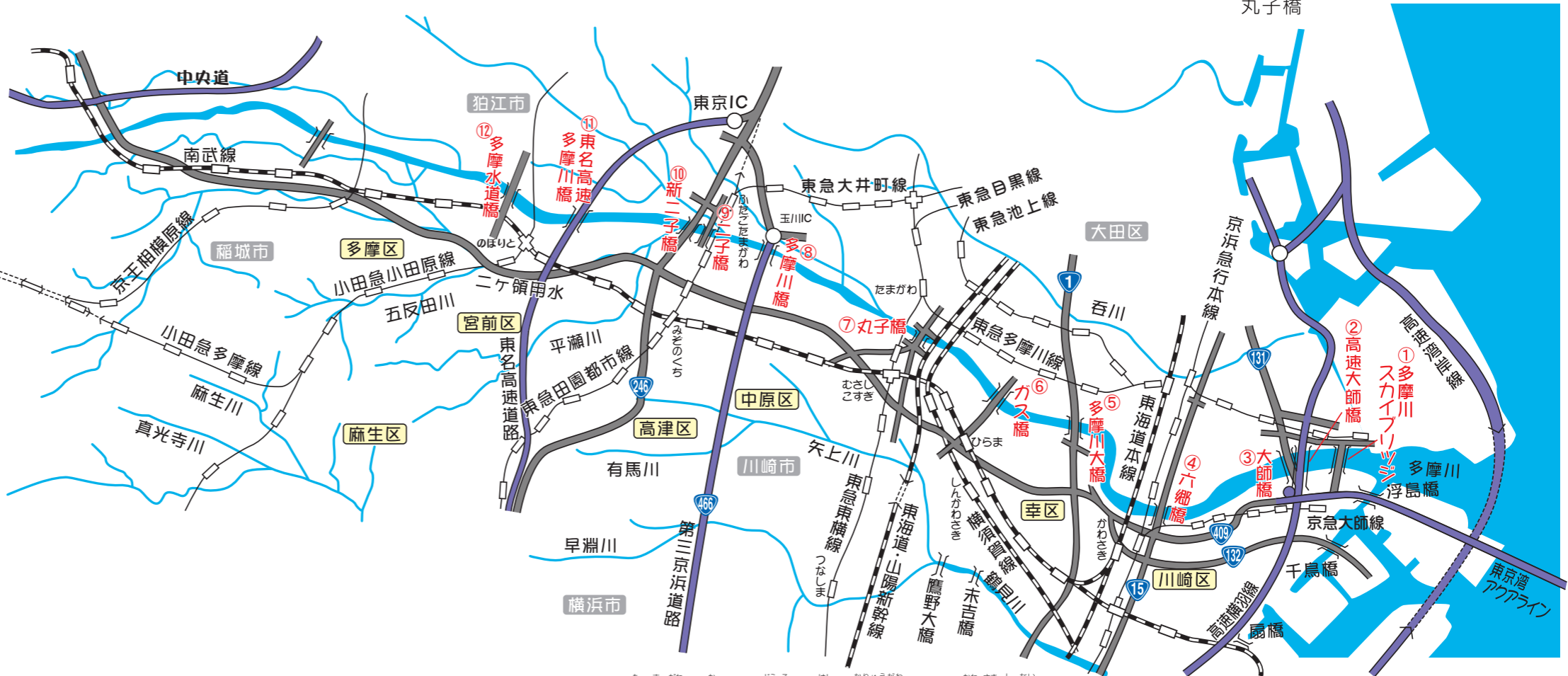


昔の多摩川



今の多摩川

橋が架けられるまでは、舟による「渡し」が大切な役割をしていました。人々は、「渡し」を使って川の対岸の村や町と行き来していました。



多摩川の「渡し」



イベントでの渡し船体験の様子

■多摩川に架かる道路の橋(下流側より 川崎市内のみ)

番号	橋の名前	通っている道	長さ(m)	できた年
①	多摩川スカイブリッジ	環状8号・殿町羽田空港	675	令和4年
②	高速大師橋	首都高速道路横浜羽田線	526	昭和43年
③	大師橋	東京大師横浜(産業道路)	550	平成18年
④	六郷橋	国道15号	443	昭和59年
⑤	多摩川大橋	国道1号	435	昭和24年
⑥	ガス橋	大田神奈川(ガス橋通り)	388	昭和35年
⑦	丸子橋	東京丸子横浜(網島街道)	406	平成12年
⑧	多摩川橋	第三京浜道路	382	昭和40年
⑨	二子橋	(旧)国道246号	440	大正14年
⑩	新二子橋	国道246号	577	昭和53年
⑪	東名高速多摩川橋	東名高速道路	495	昭和41年
⑫	多摩水道橋	世田谷町田(津久井道)	359	平成13年



川崎の道と川年表

年号	●道の仕事に関係すること	●川の仕事に関係すること	●その他のこと
1597年(慶長2年)	●小泉次大夫が二ヶ領用水の工事を始めた。		
1611年(慶長16年)	●二ヶ領用水と小泉橋ができた。		
1623年(元和9年)	●川崎宿が東海道の宿場になった。		
1629年(寛永6年)	●二ヶ領用水の宿河原取水口ができた。		
1725年(享保10年)	●田中休愚が二ヶ領用水を直した。		
1821年(文政4年)	●溝口の水そう動が起こった。		
1872年(明治5年)	●多摩川に橋をかけ、東京・横浜間に鉄道が敷かれた。		
1873年(明治6年)	●二ヶ領用水から横浜水道が引かれた。		
1883年(明治16年)	●旧六郷橋ができた(～1925年)。		
1894年(明治27年)	●府中街道が県道になった。		
1914年(大正3年)	●多摩川に堤防をつくる運動が起こった。		
1916年(大正5年)	●有吉堤ができた。		
1921年(大正10年)	●川崎町にはじめて水道が引かれた。		
	●川崎町に川崎運河ができた。		
1923年(大正12年)	●関東大震災が起こった。		
1924年(大正13年)	●川崎市が誕生した。		
1925年(大正14年)	●旧六郷橋と二子橋ができた。		
1928年(昭和3年)	●多摩川に河港水門ができた。		
1934年(昭和9年)	●旧丸子橋ができた。		河港水門
1938年(昭和13年)	●川崎駅前広場が整備された。		
1939年(昭和14年)	●旧大師橋ができた。		
1941年(昭和16年)	●二ヶ領用水に円筒分水ができた。		
1945年(昭和20年)	●二ヶ領用水上河原堰堤ができた。		
1949年(昭和24年)	●多摩川大橋ができた。		旧丸子橋
	●二ヶ領用水の宿河原堰堤ができた。		
1953年(昭和28年)	●旧多摩水道橋ができた。		
1955年(昭和30年)	●京浜第二国道が全線開通した。		
	●産業道路ができた。		
1956年(昭和31年)	●南幸町渡田線(市電通り)ができた。		
1957年(昭和32年)	●登戸陸橋ができた。		
1960年(昭和35年)	●ガス橋ができた。		
1961年(昭和36年)	●府中街道(新道)ができた。		
1962年(昭和37年)	●川崎駅前の旧地下道ができた。		
1964年(昭和39年)	●多摩沿線道路ができた。		
1965年(昭和40年)	●第三京浜道路ができた。		
1966年(昭和41年)	●京浜急行本線が立体交差になった。		
1968年(昭和43年)	●東名高速道路、川崎インターチェンジができた。		
	●首都高速道路横浜羽田線ができた。		
1971年(昭和46年)	●平瀬川と二ヶ領本川の改修が始まった。		
1972年(昭和47年)	●川崎市が政令指定都市になり、区制が敷かれた。		
1974年(昭和49年)	●多摩川(拍江)で水害が起こった。		
1975年(昭和50年)	●矢上川、真福寺川の改修が始まった。		

川崎の道と川年表

年号	●道の仕事に関係すること	●川の仕事に関係すること	●その他のこと
1978年(昭和53年)	●二子千年線(第三京浜道路高架下)ができた。		
1979年(昭和54年)	●根岸陸橋ができて横浜生田線が立体交差になった。		
	●国道246号の改修が終わった		
1980年(昭和55年)	●南部防災センターができた。		
1981年(昭和56年)	●五反田川細山調整池ができた。		
1982年(昭和57年)	●尻手黒川線(北部市場前)ができた。		
1984年(昭和59年)	●富士見通りモールができた。(モール化道路事業が始まった)		
	●今の六郷橋ができた。		
1985年(昭和60年)	●鹿島田菅線(久地)ができた。		
1986年(昭和61年)	●府中街道(溝口～浮島)が国道409号になった。		
	●川崎駅前地下街と駅前広場ができた。		
1987年(昭和62年)	●自転車放置禁止区域の指定が始まった。		
	●万福寺王禅寺線ができた。		
	●防災行政無線ができた。		
1988年(昭和63年)	●東急東横線(新丸子)が高架になった。		
1989年(平成元年)	●高津区蟹ヶ谷でがけ崩れ事故がおこった。		
1990年(平成2年)	●南武線(武蔵小杉駅と武蔵溝ノ口駅間)が高架になった。		
	●川崎駅西口広場ができた。		
1991年(平成3年)	●横浜生田(生田)ができた。		
1992年(平成4年)	●川崎縦貫道路の工事が始まった。		
1993年(平成5年)	●川崎ハローブリッジ(宮前横断歩道橋)ができた。		
	●貝塚京町線(天飛トンネル)ができた。		
1994年(平成6年)	●川崎防災センターができた。		
	●高速湾岸線ができた。		
1997年(平成9年)	●多摩防災センターができた。		
	●東京湾アクアラインができた。		
	●五反田川放水路の工事が始まった。		
2000年(平成12年)	●新しい丸子橋ができた。		
2001年(平成13年)	●新しい多摩水道橋ができた。		
	●尻手黒川線が王禅寺まで延びた。		
2002年(平成14年)	●高速川崎縦貫線のうち、浮島～殿町間約3.5キロが開通した。		
	●旧六郷橋の親柱が川崎区の稲毛公園に再現整備された。		
2003年(平成15年)	●さいわい歩道橋ができた。		
2006年(平成18年)	●新しい大師橋ができた。		
2010年(平成22年)	●高速川崎縦貫線のうち、殿町～大師間約2.0キロが開通した。		
	●尻手黒川線が世田谷町田まで延びた。		
2011年(平成23年)	●川崎駅東口駅前広場ができた		
2013年(平成25年)	●新しい江ヶ崎跨線橋が		
2017年(平成29年)	●溝口駅南口広場ができた。		
2020年(令和2年)	●二ヶ領用水が国登録記念物に登録された。		
2022年(令和4年)	●多摩川スカイブリッジができた。		
2024年(令和6年)	●五反田川放水路ができた。		
	●川崎市が市制100周年を迎えた。		

